

Title	研究会「形と空間」
Author(s)	
Citation	物性研究 (1988), 51(1): i-ii
Issue Date	1988-10-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/93489
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

研究会「形と空間」

1988年1月18~19日の両日、統計数理研究所講堂で、研究会「形と空間」を開催いたしました。参加記帳者51名に達し、活発な討論が行われました。

この研究会は昭和62年度科学研究費総合研究(A)「形態形成の科学的研究」(代表者・高木隆司東京農工大学工学部教授)の活動の一環としての、その二つのサブグループ「空間の性質と分割」と「図の体系」の合同研究会です。また開催のご通知は、「形の科学会」(会長:石坂昭三筑波大学生物科学系教授)の会員の皆様へもさしあげました。ご通知にしたためました会の主旨は以下のとおりです。

「空間の性質と分割」につきましては、次のように考えております。

物質が形態形成を演ずる舞台ともいうべき空間の性質について、われわれの幾何学は、科学の前提として必要な知識や認識を十分に備えているとは、まだいえません。

今回の研究発表についても、科学的ないしは、数理的な表現を既にとっているものの外、折紙やパズルといった科学周辺の、別の文化領域とみなされている分野で得られている認識から学ぶことも重視しております。むしろ、そのような素材から科学に仕立ててゆくことが、重要な課題です。

また、「図の体系」は、情報の伝達および記録の手段として、「字」「絵」に対して第三の記号である「図」の文法論、体系化をめざすものです。1986年に、「図の体系——図的思考とその表現」(出原・吉田・渥美著、日科技連)が出版され、1987年秋、日刊工業新聞技術・科学図書文化賞を受賞しました。

(文責 小川)

参加者各位、裏方の皆様のご協力により、質疑応答・討論の記録もここにおさめることができました。また、当日時間の都合などで実現は出来なかった討論、いわば場外討論や、討論から進展した研究等も掲載しております。

世話人 小川 泰
出原 栄一
種村 正美

目 次

動的な形・静的な形	(小川 泰) ……	1
たたみこみの幾何学	(三浦 公亮) ……	4
正多胞体による4次元空間充填図形	(宮崎 興二) ……	14
ダブル充填図形	(中村 義作) ……	24
正・準正多面体と菱面体	(別宮 利昭) ……	29
分子のトポロジカルな構造の認識と諸物性との関連の研究	(細矢 治夫) ……	40
パーコレーション・パターンのトポロジー	(富田 博之) ……	46
形の体系について	(郡山 正) ……	52
図表現の基本的な方法	(渥美 浩章) ……	59
図言語の図的特性	(出原 栄一) ……	65
球面の2進分割など	(清水 達雄) ……	72
流体力学の幾何学的問題	(高木 隆司) ……	79
二種類の細胞が敷きつまった多角形パターン	(本多 久夫) ……	85
二種の細胞によるランダム充填	(種村 正美) ……	89
地域間距離と地域の形	(栗田 治・腰塚 武志) ……	97
準結晶にからむ二三の数理	(小川 泰) ……	110